

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年 1月 11日

協議会名:加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北鉄加賀バス(株)	(路線名)温泉片山津線 (運行区間)加賀温泉駅～片山津温泉～石川病院～湖城団地～加賀温泉駅	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布した。周遊クーポンは「いしかわまるごとおでかけきっぷ」を北陸鉄道(株)にて新設することとなり、北鉄グループ他西日本JRバス(株)、のと鉄道(株)とも連携し石川県全域で販促を行うこととした。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B コロナ禍の長期化により、定期外の観光利用が回復しなかったことが影響し、1便あたり乗車人員は9.78人と目標の12人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布する。また、新年度より展開を見込んでいる加賀市版MaaSを活用し、キャッシュレス決済・他の交通モードとの連携等利便性の向上を図る。
北鉄加賀バス(株)	(路線名)山代大聖寺線 (運行区間)山中温泉～山代温泉東口～上河崎～大聖寺駅～大聖寺実業高校・かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布した。ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	A コロナ禍長期化による影響はあったものの、通学利用が安定的にあり、1便あたり乗車人員は9.49人と目標の8人を上回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。
北鉄加賀バス(株)	(路線名)温泉大聖寺線 (運行区間)加賀温泉駅～松が丘～大聖寺駅～かが交流プラザさくら	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布した。ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	B コロナ禍の長期化により、定期外の利用が減少したことが影響し、1便あたり乗車人員は3.55人と目標の5人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新生に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。

北鉄加賀バス(株)	(路線名)吉崎線 (運行区間)加賀温泉駅～上河崎～大聖寺駅～塩屋	今年度も引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布した。ただし、予定していたダイヤ変更や運賃制度の変更は見送った。	B	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施していない点があった。	B	生活路線の要素が強いためコロナ禍の影響は軽微で昨年度より乗車人員が増加したが、少子化による通学定期利用の減少が影響し、1便あたり乗車人員は10.11人と目標の11人を下回った。	引き続き、MM施策として加賀市の協力のもと、加賀市内全世帯と高校の新入生に時刻表を配布する。学生の利用促進のため、登下校に使いやすいダイヤ編成及び運賃制度を検討する。
日本海観光バス((株))	系統名:キャンパス空港線 運行区間:加賀温泉駅～片山津温泉～小松空港	沿線住民に割安回数券の利用促進。Wi-Fi設置によるサービス向上。大手航空会社とのパック商品化による利用促進に努めた。	B	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客の激減と、航空機運行減便により、令和2年11月～令和3年1月までは全便運行しました。それ以外の期間は全便運休しました。	B	令和2年11月～運行を再開し、令和2年12月末に緊急事態宣言発出となり、この間、令和3年1月までの3か月では、1便当たりの乗車は、1.09人と低迷した。	小松空港への直通路線は生活路線として重要と考える。他の路線との兼ね合いを考慮しながら改善につとめたい。